

公開実用 昭和 58—112111

⑯ 日本国特許庁 (JP)

⑰ 実用新案出願公開

⑱ 公開実用新案公報 (U)

昭58—112111

① Int. Cl.<sup>3</sup>  
A 44 C 25/00

識別記号

庁内整理番号  
7150—3B

② 公開 昭和58年(1983)7月30日

審査請求 有

(全 頁)

④ 装身用止金具

甲府市武田二丁目 6—3

⑦ 出 願 人 饗場安雄

① 実 願 昭57—9894

甲府市武田二丁目 6—3

② 出 願 昭57(1982)1月27日

⑧ 代 理 人 弁理士 土橋博司 外1名

③ 考 案 者 饗場安雄



## 明 細 書

### 1 考案の名称

装身用止金具

### 2 実用新案登録請求の範囲

1. 前面に内向きフランチ状受部( / 3 )を形成され、後面開口部( / 4 )の側に相対向する一対の止め棒( / 5 )、( / 6 )を有する窓状棒体( / 2 )と、この棒体( / 2 )内に上記止め棒( / 5 )で脱着を防止しながら装着した板バネ( / 7 )とからなり、上記棒体( / 2 )には板バネ( / 7 )の弾性に抗して装身用本体( / 1 )を脱着可能に圧入したことを特徴とする装身用止金具。
2. 一方の止め棒( / 5 )が広幅に形成され、小幅の止め棒( / 6 )を棒体( / 2 )の側壁に沿ってやや垂下させ、垂下部( / 8 )を形成してなる実用新案登録請求の範囲第1項記載の装身用止金具。
3. 一対の止め棒( / 5 、 / 6 )が後面開口部の上下に形成された実用新案登録請求の範囲第1項または第2項記載の装身用止金具。

### 3 考案の詳細な説明



この考案は平板状の宝石類やコイン、金地金等をペンダント等として取り付けることのできる装身用止金具に関するものである。

従来宝石やコイン、金地金等を指輪やカフス、ネックレス、ペンダント、タイ止めとして用いる場合内周に嵌合溝を形成した窓状枠体を一箇所切り離して拡張可能にし、この切れ目の端部外周上に一对の合着して雄ネジとなる突起を突設するとともに、コイン等を収納した後この雄ネジ状突起に袋ネジを螺着してなるものがあつた。

また一面にフランジを形成し、コイン等をフランジに係止してリングに収納した後、他面に立設したツメを折り込んで抜け止めするようにしてなる例も知られている。

しかしながら前者のものにおいては、突起がペンダントとして用いる場合を除いてデザイン上の障害となり、カフスやタイ止めの場合には使用することができなかった。

後者のものにおいては、ツメがデザイン上美観を損って好ましくないため、片面でのみ使用せざ

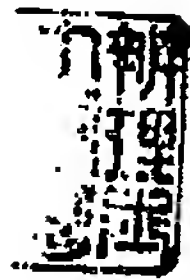
るを得ず、両面の使用ができないのでその用途がタイ止め等に限定されてしまうという欠点があった。

更にペンダントの場合を除いて、宝石類やコイン等は枠体への着脱が専門家の熟練を必要とし、枠体と一体としてのみ販売が可能となるので納入に時間を要し、直売できる態勢をとることが困難であった。

本考案の装身用止金具は上記欠点を解消したもので、前面に内向きフランジ状受部を形成され、後面開口部の面側に止め枠、を有する窓状枠体と、この枠体内に上記止め枠で脱落を防止して装着した板バネとからなり、上記枠体に板バネの弾性に抗して装身用本体を圧入したことを特徴とするものである。

したがって装身用本体の着脱操作が非常に簡単で、しかも装身具としての美観に優れていて、付加価値が大幅に向上した。

以下図面に基づき本考案の一実施例を説明する。  
図面はペンダントに適用した例を示し、窓状枠体

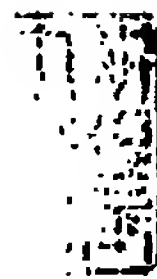


／ 2 は前面に内向きフランジ状受部／ 3 を形成され、内径をコイン等の装身用本体／ 1 の外周とほぼ等しくした上、後面開口部／ 4 の上下一対に止め枠／ 5 及び／ 6 を有している。この一方の止め枠／ 5 は広幅に、他方の止め枠／ 6 は小幅に形成されていて、広幅の止め枠／ 5 側には中高に形成した板パネ／ 7 が収納される。

上記小幅の止め枠／ 6 の両端は、窓状枠体／ 2 の側壁に沿ってやや垂下させ、止め枠／ 6 を美観を損ねない程度に幅を圧縮するとともに、この垂下部／ 8 により装身用本体／ 1 が簡単には脱落しないようにしている。

また上記枠体／ 2 は装身用本体／ 1 の材質に合わせて適宜の材質を用いて作製することができ、18 金やシルバー、プラチナ等を用いれば良い。

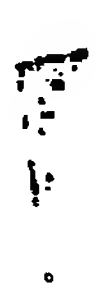
上記のように構成された本考案の装身用止金具は次のように使用される。ペンダント等として使用する場合には枠体／ 2 の外周上にバチカン／ 9 を設け、これに鎖等を取り付ける。このようにして予め所定の型式に形成された枠体／ 2 の止め枠



／５部分に、ステンレス等からなる板パネ／７を収納した上で、装身用本体／／を、枠体／２へその後面開口部／４から、板パネ／７を奥の方へ押し込みながら止め枠／５内へ嵌め込み、その他端も止め枠／６へ嵌め込んだ後力を開放すると、板パネ／７が装身用本体／／を止め枠／６側へ押圧することによって、この装身用本体／／をリング状枠体／２内へ強固に嵌着する。

なおコイン等を入れ換えて気分を一新したり、購入時に色々な種類のコイン等を試着したりする場合には、コイン等からなる装身用本体／／を持って板パネ／７側へ押し込み、他端を止め枠／６からはずして引き出すことにより簡単に取りはずすことができる。

この考案の装身用止金具は以上のように構成したから、これをパチカン等で吊り下げることにより、装身用本体／／の自重で止め枠／６側に圧着されるので、板パネの反発力がそれほど大きくなくとも脱落の虞れがなく、取り付けも非常に簡単である。また上述のようにツメ等を使用しないの



で美感が損われず、このような止金具としては大  
変新規なものである。

#### 4 図面の簡単な説明

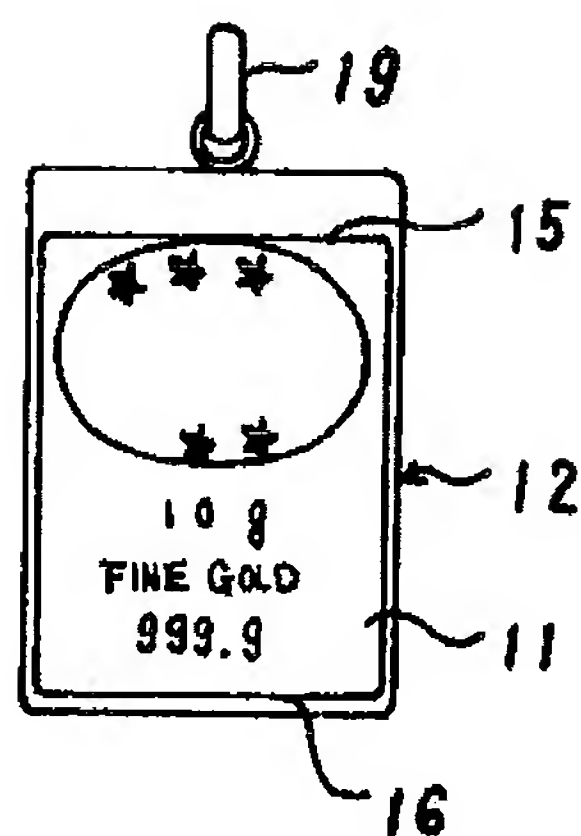
第1図ないし第3図は本考案の一実施例を示す  
それぞれ正面図、分解組立図及び断面図である。

- |         |         |     |        |
|---------|---------|-----|--------|
| / 1     | 装身用本体   | / 2 | リング状棒体 |
| / 3     | フランジ状受部 | / 4 | 開口部    |
| / 5、/ 6 | 止め棒     | / 7 | 板パネ    |
| / 8     | 垂下部     | / 9 |        |

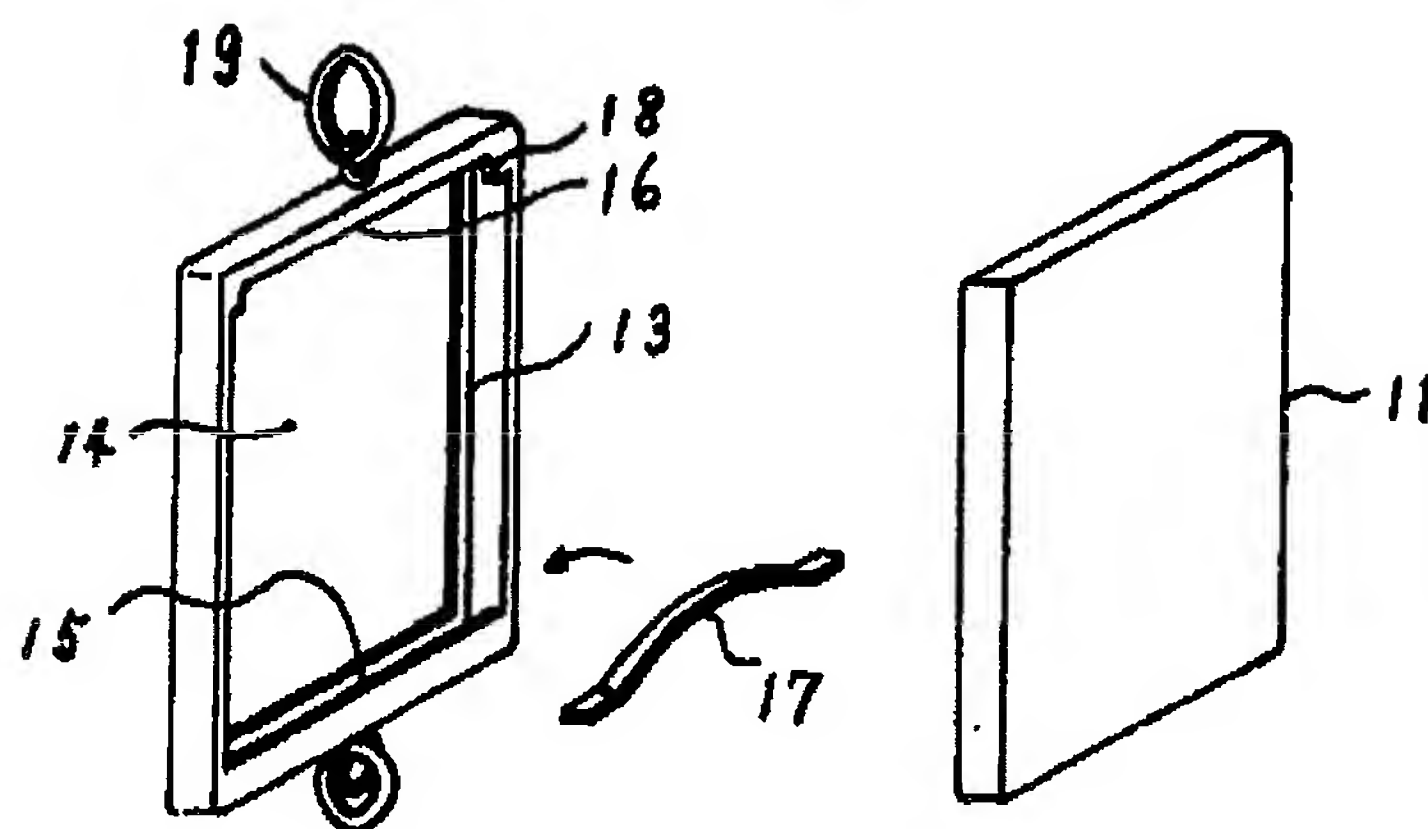
実用新案登録出願人 齋 場 安 雄  
代 理 人 弁 理 士 土 橋 博 司  
代 理 人 弁 理 士 土 橋 強



第 1 圖



第 2 圖



第 3 圖

